

平成21年度当初予算の概要をお知らせします

一般会計予算 38億6千3百万円

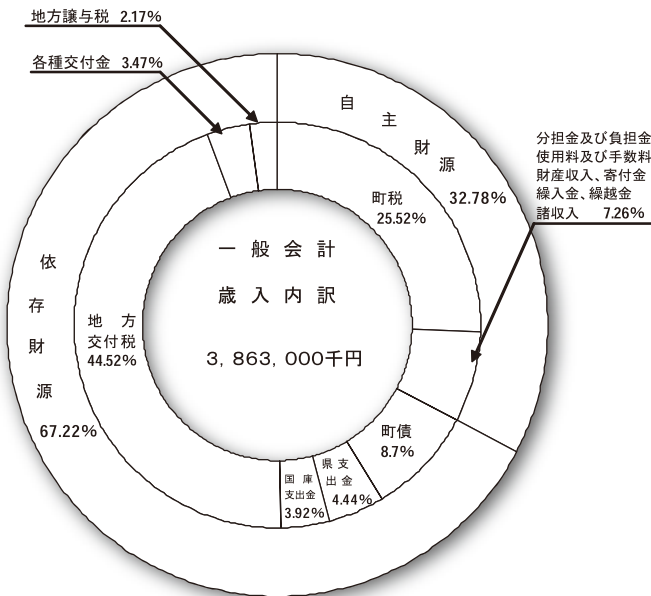
平成21年度一般会計予算の総額は38億6千3百万円で、前年度当初予算対比0.7%、2千7百万円の増額となりました。増額となった主な要因は、小野中学校改築整備事業関係予算や緊急的な雇用機会創出のための事業予算の計上のほか、各種事業の内容拡充などによるものです。

【予算編成の基本的考え方】

平成21年度当初予算については、経済状況の悪化による税収などの大幅な落ち込みにより財源確保が一段と厳しい状況にあることから、限られた財源をより効率的、効果的に配分するため、既存事業の必要性、重要性、緊急性等を検証し、併せて歳出の徹底した見直しを行いました。また、中・長期的財政見通しに基づきながら、平成21年度を初年度としてスタートする第四次小野町振興計画のまちづくりの基本目標である「すこやか・はぐくみ」「げんき」「さわやか」「あんしん」を5本の柱として掲げ、これらに基づく重点施策に対し集中的に予算配分をするとともに、「笑顔とがんばり行革大綱」の基本方針に沿って予算を編成しました。

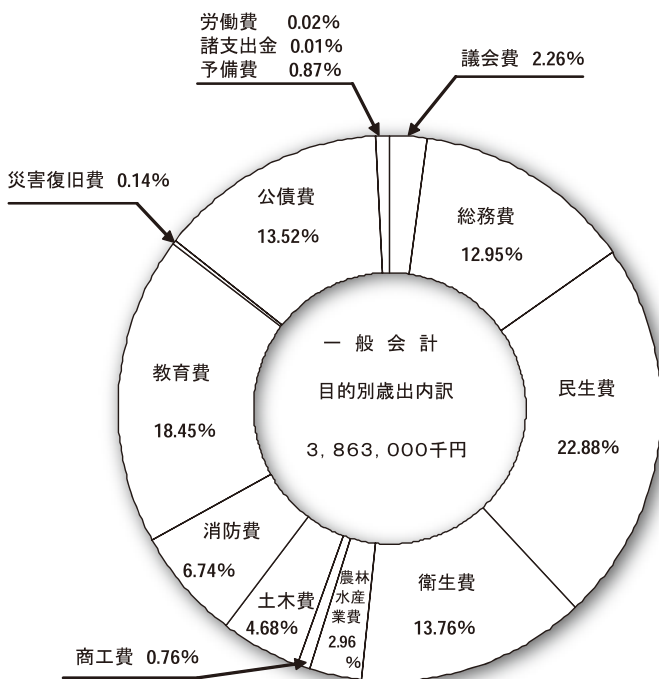
【歳入】

一般会計における歳入予算のうち、町税においては、景気の後退による町内製造業を中心とした経営の影響等により前年度比4.58%、4千7百万円の減を見込み、減少傾向にあった本町の重要な財源である地方交付税については、地方財源確保のための加算措置などから、前年度比2.5%、4千2百万円の増を見込みました。また、投資的事業として小野中学校改築整備事業を予定していることから、



【歳出】

その財源として公共施設等建設準備基金からの繰り入れと町債で対応し、財源不足を調整する目的の財政調整基金は、当初予算段階での取り崩しは行わず、收支均衡型の予算となりました。町民サービスの維持、向上に支出する一般会計の歳出は、教育費で小野中学校改築事業予算の計上や外国語教育推進事業の拡充などにより前年度比52.98%と最も増加しており、そのほ



が増加した主な科目は商工費で地域資源を生かした新たな商品開発事業や地域振興のための特別商品券補助などにより15.43%、総務費で緊急雇用創出事業により10.61%の増となりました。一方、減少した主な科目は、災害復旧費で19年災害復旧事業完了により85.45%の減のほか、土木費が30.01%、公債費が22.77%の減となりました。